

平成26年8月25日

—新たなイノベーション人材の育成—  
文部科学省「平成26年度グローバルアントレプレナー  
育成促進事業」に採択

[教育機能・地域中核機能]

文部科学省の平成26年度「グローバルアントレプレナー育成促進事業」に広島大学の取組みが採択されました。

本事業は、海外機関や企業等と連携しつつ、起業に挑戦する人材や産業界でイノベーションを起こす人材の育成プログラムを開発・実施する大学等を支援することを目的に、今年度から開始された事業です。全国の国公立大学から55件の応募があり、13大学が採択されました。

本学の取組みは次のとおり。

■事業名：「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」

■プログラム概要

○目的：

平和を希求し人類の福祉向上に貢献する志を持ちつつ、起業社会を生きぬくベンチャーマインド（決断力、挑戦力、学際力、コミュニケーション力、リスクマネジメント力、強靱力、課題発見・解決力）を有したイノベーション人材を育成する。

さらには、育成したイノベーション人材が、ベンチャー企業、新製品、新技術などを創出し、産学官金ネットワークを深化・拡張させ、新たなイノベーション創出を支援するという、自立的なイノベーション・エコシステムの構築を目指す。

○受講対象者：修士・博士課程大学院生、若手研究者および社会人

○受講期間：1年間（10月受入）

○募集人数：平成26年度 10人

平成27年度、28年度 各25人

※ 理系・文系混合メンバーで構成

○実施内容：

本学がこれまで培ってきた国内外機関との連携を基盤に、産学官金ネットワークを形成し、起業マインド・スキルを涵養する「起業化能力育成科目」や「起業化トレーニング科目」、さらに対話型ワークショップやインターンシップなどの「起業化実践型研修科目」を、文理融合環境の中で提供する。

■具体的な取り組み：別紙のとおり

【お問い合わせ先】

学術・社会産学連携室  
社会連携グループリーダー 村上 尚  
TEL:082-424-6031



- 広島大学理念5原則**
- 平和を希求する精神
  - 新たなる知の創造
  - 豊かな人間性を培う教育
  - 地域社会・国際社会との共存
  - 絶えざる自己変革

# ひろしまアントレプレナーシッププログラム

国立大学法人 広島大学

平成26年8月25日

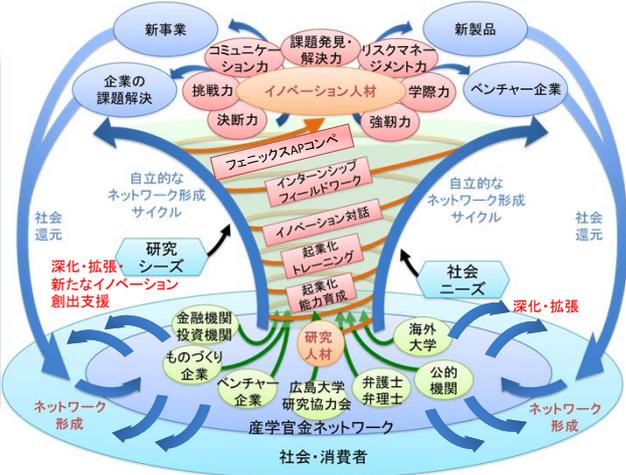


## (1) 目指す人材像とイノベーションエコシステム

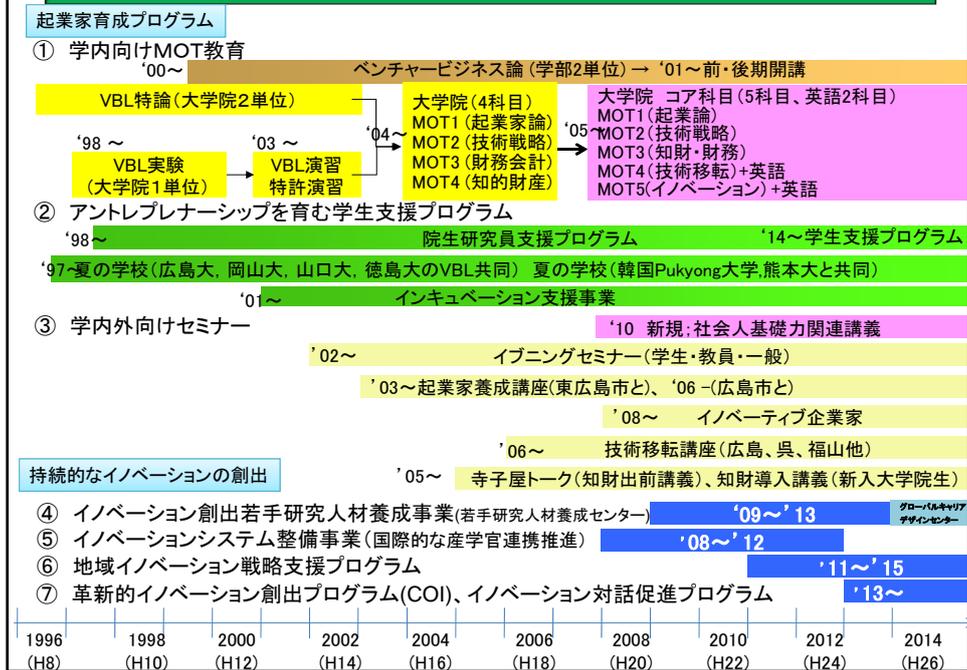
### 目指す人材像

広島大学の理念である **平和を希求し、人類の福祉向上に志をもちつつ、** 研究成果を基に、イノベーションを創出し、企業の内外を問わず、**起業社会を生き抜くベンチャーマインド**、即ち、**決断力、挑戦力、学際力、コミュニケーション力、リスクマネジメント力、強靭力、問題発見・解決力を有するイノベーション人材**の育成

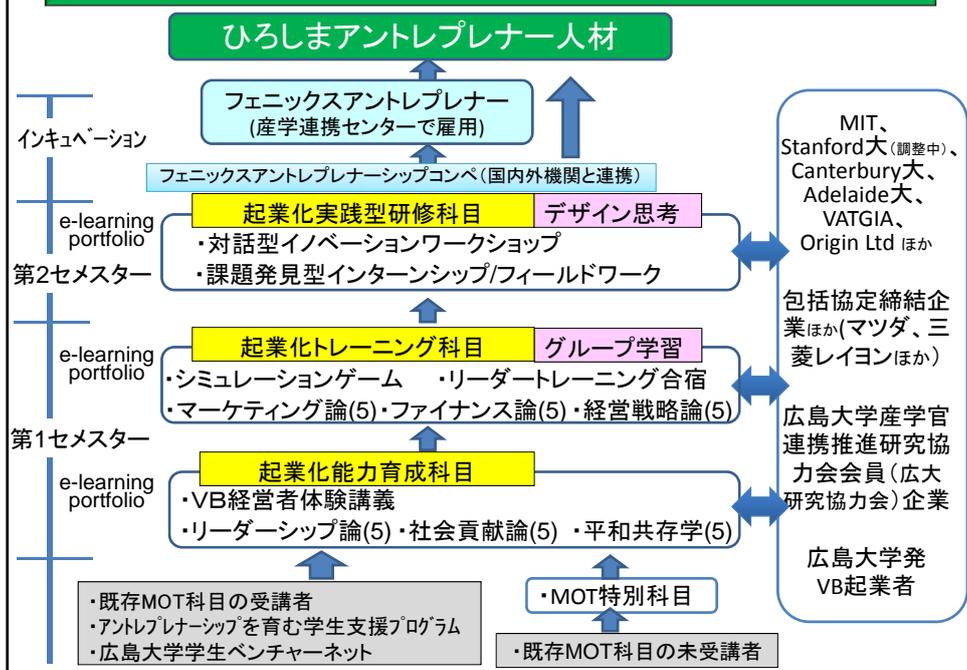
### イノベーションエコシステム



## (2) 広島大学のこれまでの関連教育の取組み



## (3) 人材育成プログラムの内容



## (4) 起業家マインドの醸成とプログラムの内容

### イノベーション人材に必要な7つの力

- ・強靭力
- ・決断力
- ・問題発見・解決力
- ・リスクマネジメント力
- ・コミュニケーション力
- ・挑戦力
- ・学際力

### フェニックスアントレプレナー

ベンチャー立ち上げ時期に広大が雇用し実践研修で支援

### フェニックスアントレプレナーシップコンペ

#### 起業化実践研修科目

- ・対話型イノベーションワークショップ
- ・課題発見型インターンシップ/フィールドワーク

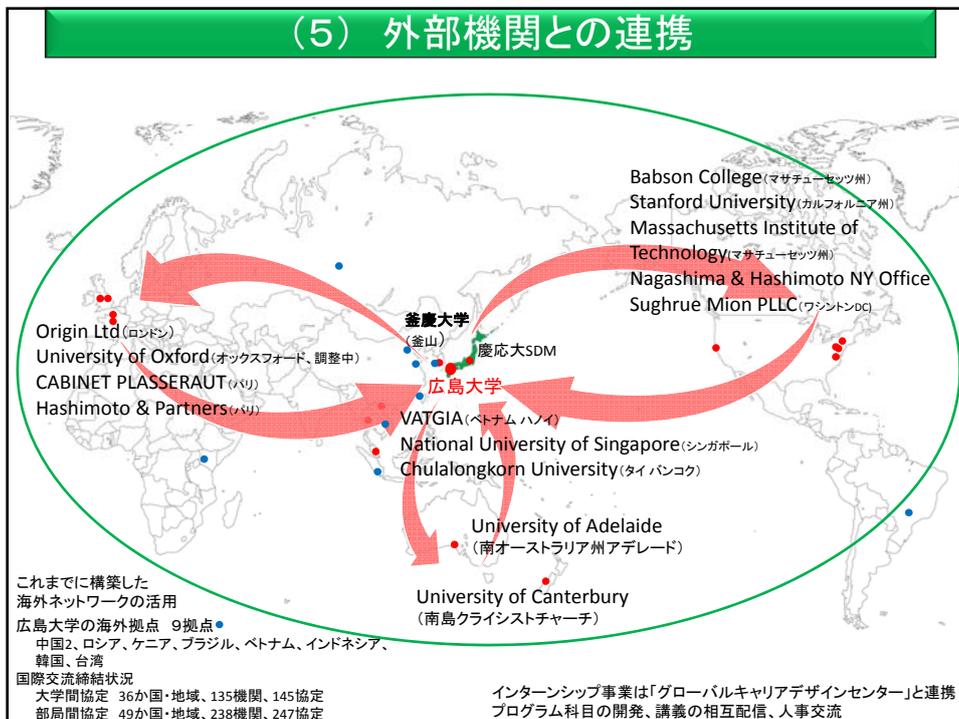
#### 起業化トレーニング科目

- ・経営戦略論
- ・ファイナンス論
- ・マーケティング論
- ・シミュレーションゲーム
- ・リーダートレーニング合宿

#### 起業化能力育成科目

- ・VB経営者体験講義
- ・リーダーシップ論(オムニバス)
- ・社会貢献論
- ・平和共存学

## (5) 外部機関との連携



## (6) 想定する受講者の構成、評価方法及び改善方法

### 想定する受講生の構成

★文理融合チームで構成  
理工農系のみならず、人文社会系を含めた、修士・博士課程大学院生、若手研究者及び社会人を受け入れ。

### 年次受け入れ計画

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
第Ⅰ期	10月～			
第Ⅱ期		10月～		
第Ⅲ期			10月～	

### 改善方法

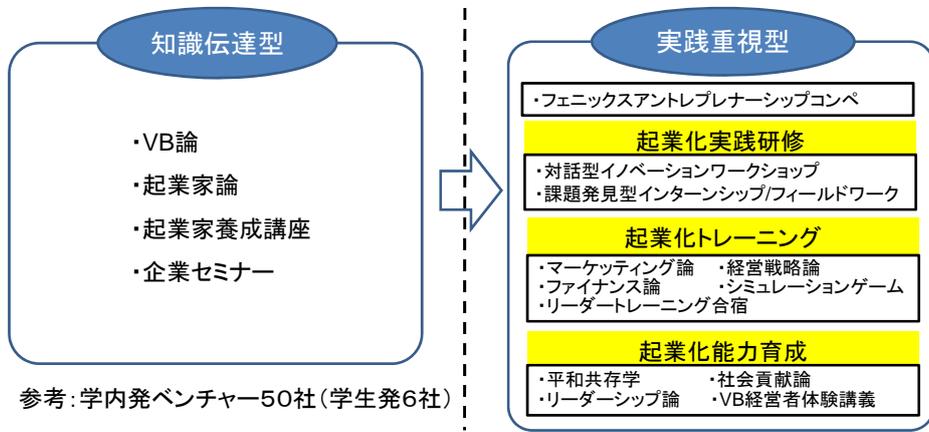
1. 学習到達度、自己点検評価、外部評価委員会評価に基づき、育成プログラムの見直しを行い、次年度に改善を実施
1. 受講生のアンケート結果に基づき、プログラム改善

### 評価方法

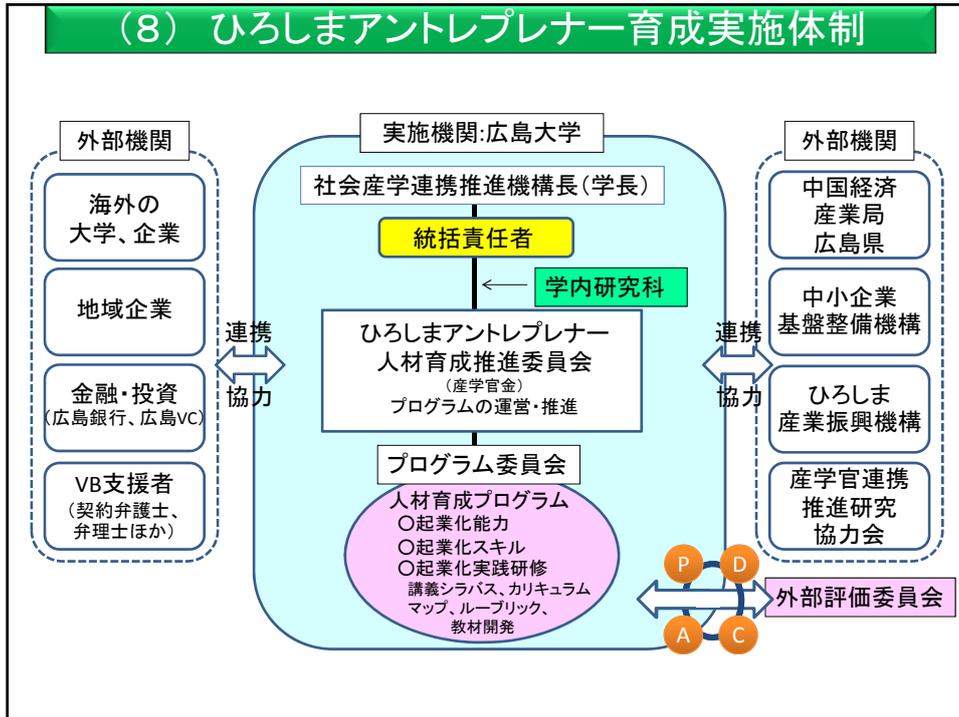
1. 各科目ごとに、カリキュラムマップおよびルーブリックを策定し、e-ラーニングポートフォリオシステムにより学習到達度を評価
2. 受講生に対するアンケート実施
3. フェニックスアントレプレナーシップコンペティションを実施し、修了生のベンチャーマインドを評価
4. 外部評価委員会評価
5. 最終年度は目標に対する到達件数

## (7) 既存の取組みとの違い

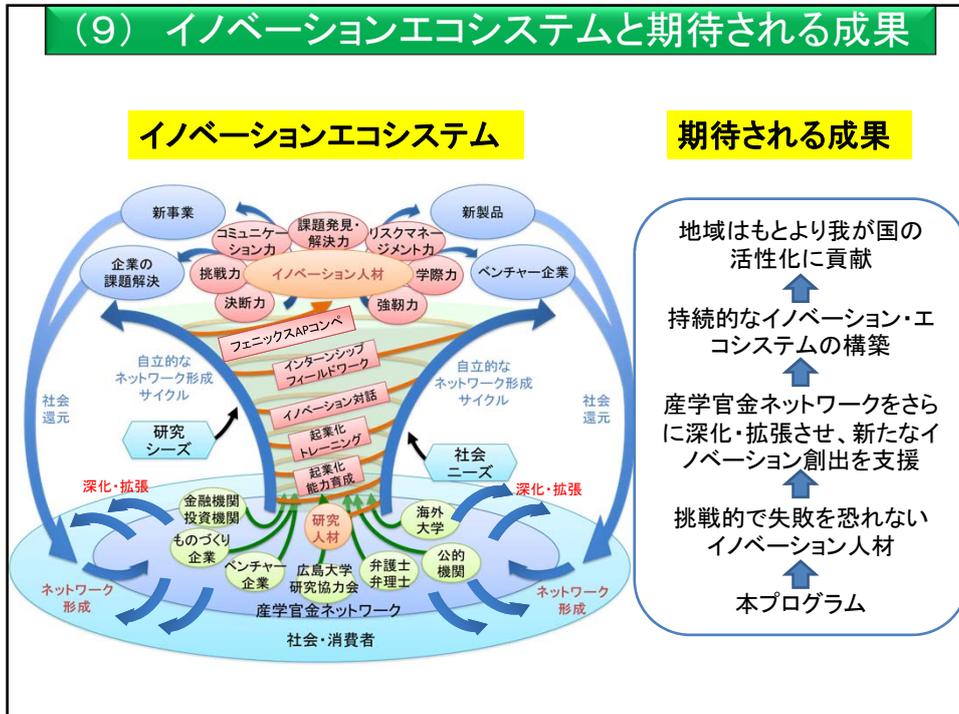
これまでの取組み	今回の取組み
知識伝達型(スキルセット)	知識+能力育成(マインドセット)
一方向	双方向(受講生参加)
座学重視型	実践・体験重視型
個別推進 (VB教育、MOT教育など)	統合的な推進 (国内外の外部機関との連携体制)



## (8) ひろしまアントレプレナー育成実施体制



## (9) イノベーションエコシステムと期待される成果



# グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGEプログラム）

平成26年度予算額  
907百万円（新規）

参考資料

## 現状分析・課題

- 我が国の成長の原動力となるイノベーション創出を推進するためには、専門分野を持ちつつ、幅広い視野や課題発見・解決能力、起業家マインド、事業化志向を持つ人材の育成が必要。
- 専門知識や研究開発力を持つ人材は育成されてきたが、ベンチャー業界に飛び込む人材や企業内でイノベーションを起こす人材へのニーズが急増。
- 大学とVCのネットワーク等、大学発ベンチャー等、大学発ベンチャーが成長するための環境（イノベーション・エコシステム）が未発達。

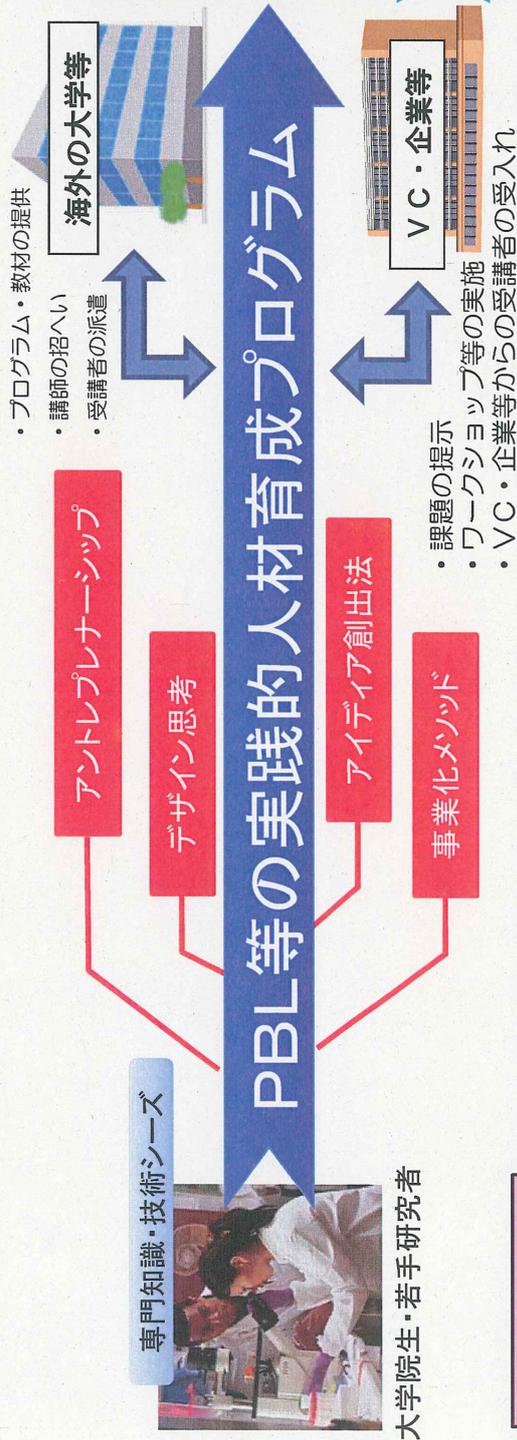
## 事業の概要

○ **取組内容:** 海外機関や企業等と連携し、起業に挑戦する人材や産業界でイノベーションを起こす人材の育成プログラムを開発・実施する大学等を支援【プログラムの例】

- ・ベンチャーキャピタリスト、メーカー、金融機関や大学を巻き込み、事業化メソッドや起業家マインドを若手研究者が取得するプログラム
- ・「デザイン思考」や「事業化志向」、課題を自ら発見し文理融合型のアプローチで解決を図るPBL(※1)等を中心としたプログラム

(※1) PBL (Project-Based Learning) ; 問題解決型学習

- **対象機関:** 日本国内の大学、大学共同利用機関、高等専門学校
- **受講対象者:** 大学院生・若手研究者・ポスドク等
- **補助事業期間:** 原則として3年間(平成28年度まで)



## 期待される効果

- 専門知識や研究開発の素養のある人材が、課題発見・解決能力、起業家マインド、事業化志向を身につけ、大学発ベンチャー業界や大企業に飛び込むことで、イノベーション創出を促進。
- 我が国におけるVC・企業・大学・研究者間のネットワークを強化し、持続的なイノベーション・エコシステムを構築することで、大学発ベンチャー創出の素地を醸成する。

平成26年度グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)  
選定機関一覧

	プログラムの名称	機関名	総括責任者	プログラムの概要
1	東京大学グローバルイノベーション人材育成促進事業	東京大学	堀井 秀之	<p>本事業は、イノベーションを継続的に生み出すため、自らの研究成果をベースに事業化プランを策定し、更にグローバルな市場・競争環境下において自ら事業化(起業)に参画できるスキルとマインドを持ったイノベーション人材の育成を目的としている。そのために、本事業では若手研究人材(修士・博士課程学生、PD・若手研究者、企業内若手技術者・研究者等)に対して、事業化に向けたプロセスに沿って、創造性(クリエイティビティ)教育及びアントレプレナーシップ(起業)教育をシームレスに提供する。具体的な技術シーズや社会的課題をベースとした事業化構想が現実性を帯びたものとするために、外部専門家によるメンタリングとを合わせて提供する。プログラムのテーマ領域は、基盤となる学融合的なものに加え、保健医療分野等の専門性に軸足を置いたものも実施する。</p> <p>また、常にグローバルな視点を念頭に置くことが重要であり、本学が培ってきた産学連携の仕組み及び海外有力大学等との連携を積極的に活用する。実践的・体験型の人材育成を目指し、事業面と社会面でのイノベーションの継続的創出のための人的基盤(インフラ)とエコシステムの構築を実現したい。</p>
2	起業実践プログラムによるイノベーションリーダーの育成	東京農工大学	千葉 一裕	<p>本事業では、自ら又は協働で見出した課題解決により、研究成果に基づく起業や企業における事業開発を推進できる人材の育成を目指す。国内20以上の大学、ベンチャーキャピタル、製造業、流通業、シンクタンク及び海外第一線のイノベーション推進機関と共にイノベーション・エコシステムを構築する。学内外の学部・大学院生、若手研究者及び社会人を対象に「課題解決に向けてチームを作り」、「既存の価値基準を越えた提案が社会に理解される努力を続け」、「事業経験者や専門家の協力を得て、地域や異業種、外国機関と連携し、価値観の共有と相互互惠の理念で事業を進める」他、「プロジェクト遂行に不可欠な資金調達能力を養う」。実業を推進する受講者には、海外大学院ビジネススクールの学位取得の機会を付与する。事業終了までに本学に設置する大学院新専攻(博士前期・後期課程)の教育課程を中核として、事業並びに連携関係の発展的継続性を確保する。</p>
3	チーム志向越境型アントレプレナー育成プログラム	東京工業大学	飯島 淳一	<p>本取組みは、様々なステークホルダーとの間の自律的な協力関係を保ちながら、専門の違い、文化の違い、性別の違いなどの境界を乗り越え、多様な価値観を許容し、互いに協力しながらチームとして活動することにより、イノベーションを起こすことのできる人材を育成することを目指している。</p> <p>また、大学院修士課程学生をターゲットとした人材育成のみならず、K12に対する21世紀スキル教育、プログラムへの導入となる起業体験イベントの実施、およびプログラムの出口としての海外派遣、起業後のアクセラレーション、そしてEXITまでの全体をカバーする、イノベーション・エコシステムの構築を特徴としている。</p> <p>教育プログラムは、「デザイン思考にもとづくもの・ことづくり」ピラー、「アントレプレナー育成に焦点を当てたMBA関連科目」ピラー、およびビジネスプランの書き方から、メンターによる起業指導までを含む「アントレプレナーシップ論」ピラー、の3つの大きな柱からなっている。</p>
4	医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー育成プログラム(KODEプログラム)の開発・実施	滋賀医科大学	遠山 育夫	<p>海外の大学にもほとんど存在しない医工連携に特化し、デザイン思考を取り入れたグローバルアントレプレナー育成プログラムの開発と実施に取り組む。</p> <p>本申請機関は本年度から大学院に「学際的医療人コース」を設置しているが、起業家育成プログラムを有しておらず、その導入自体が挑戦的な取組みである。更に進めて、従来になく「医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー育成プログラム」の開発と実施にチャレンジする。</p> <p>初年度は海外を含めた外部の優れたプログラムの導入を行いつつ、デザイン思考を取り入れた医工連携に特化した人材育成プログラムを開発する。具体的には、起業実績の豊富なオタワ大学、技術移転で実績を有するニューヨーク州立大学バッファロー校、医工連携や米国薬事規制に精通したハーバード大学プリガムウイメンズ病院、近隣大学の協力を得て、既存の起業家育成プログラムの一部を導入しつつ、新しい人材育成プログラムを確立する。</p>
5	GTEP(グローバル・テクノロジー・アントレプレナーシップ・プログラム)	京都大学	福山 泰生	<p>受講者が自らの習熟度・コミットメントレベルに応じて選択できる異なる難易度を持つ複数の教育モジュールを提供し、幅広いキャリアの選択肢の中で活躍するための高度なスキルとマインドセットを有する人材を育成する。</p> <p>必要なインフラを整備し、大学を中心とした外部のネットワークを構築することで、有効に機能するグローバルスタンダードな起業エコシステムの構築を行う。</p> <p>教育モジュールは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語・英語での基礎知識教育</li> <li>・海外起業ホットスポットでの研修</li> <li>・実践的事業化教育</li> <li>・医療機器に特化した実践的事業化教育</li> <li>・エコシステムのインフラ整備およびコーチングプログラム</li> </ul>
6	「世界適塾」魁 -World Tekijuku Groundbreakers-	大阪大学	馬場 章夫	<p>大学院生、若手研究者が、社会的課題を解決する研究デザインや研究成果の事業化に取り組むことで成長し、ベンチャー企業や新事業の担い手となり、また、広くイノベーションに貢献する人材となることを促進する。さらに、将来、知識基盤社会における人類的、社会的課題の解決のための事業を担い、「適塾」精神を現代社会に体現したWord Tekijuku Groundbreakers、へと成長していくことを目標とする。</p> <p>事業内容の中心は、実践プログラムであり、現実課題のProject-Based Learningである事業化志向の研究デザインに取り組むこと、また、新事業創生にチャレンジすることである。海外先進事例に実践的に学びグローバルネットワークを基盤とする、社会的価値創造によって、社会的に支持される、持続的エコシステムの形成を目指す。</p>

	プログラムの名称	機関名	総括責任者	プログラムの概要
7	「モノのインターネット」分野でのグローバルアントレプレナー育成プログラム～Global Entrepreneurs in Internet Of Things(GEIoT)～	奈良先端科学技術大学院大学	小笠原 司	奈良先端科学技術大学院大学では、先端情報3分野(ソフトウェア・ロボット・情報セキュリティ)にまたがる先導的技術者を輩出するための人材育成プログラムに取り組んできた。本事業では、これを発展させ、グローバルアントレプレナーシップと、先端情報技術を社会実装側から捉えた「モノのインターネット」(IoT)分野における技術的素養とを兼ね備えたマルチスペシャリストを育成するPBL型教育プログラムを実施し、輩出されるグローバルアントレプレナーによる革新的な事業創出を支援するイノベーション・エコシステムを開発する。 具体的には、IoT分野において、プロジェクトチームによる製品・サービスの開発をPBL手法を通じて学ばせることでベンチャー創出に必要な実践力を養成する。また、ベンチャーを創出する優秀なアントレプレナーを育成し、国内外の企業や大学との連携を通じて、実際に起業に至るまでの教育とサポートを実施する。
8	ひろしまアントレプレナーシッププログラム	広島大学	岡本 哲治	本事業が育成を目指す人材像は、本学の理念である、平和を希求し人類の福祉向上に貢献する志を持ちつつ、起業社会を生きぬくベンチャーマインド、つまり、決断力、挑戦力、学際力、コミュニケーション力、リスクマネジメント力、強靭力、課題発見・解決力を有したイノベーション人材である。本プログラムでは、理工農医療系・人文社会系や社会人など、幅広い分野の人材を対象とし、本学がこれまで培ってきた国内外機関との連携を基盤に、産学官金ネットワークを形成し、起業マインド・スキルを涵養する「起業化能力育成科目」や「起業化トレーニング科目」、さらに対話型ワークショップやインターンシップなどの「起業化実践型研修科目」を、文理融合環境の中で提供することで、新たなイノベーション人材を育成し、ベンチャー企業、新製品、新技術、企業の課題解決などを創出し、さらに、その人材が産学官金ネットワークを深化・拡張させ、新たなイノベーション創出を支援するという、自立的なイノベーション・エコシステムの構築を目指す。
9	九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業	九州大学	谷川 徹	本学が過去、QRECを中心に先行的に実施してきたグローバルアントレプレナー(イノベーション人材)育成の試みを、本事業により全学に拡大する。 かつ関係の深い地域(福岡市)や、従来からの広範な海外とのネットワークを活用・強化して、地域ワイド、グローバルワイドのイノベーション人材育成エコシステムを形成、より多様なグローバルな能力を持つ、アントレプレナー育成システムを確立する。特にビジネス化ステップの教育を強化・新設し、真にイノベーションを起こす人材輩出を目指す。 運営に当たり、多くの優れた海外イノベーション教育機関等の支援を受けるが、事業終了後、本教育を自立的に継続するために、各局教員の事業参加を促して研修の機会とし、本教育担当可能な教員数を拡大する。 更に、シーズ起点のPBLにデザイン思考を活用する新たな試行的取組みを実施、デザインのリソースを有する本学の優位性・特色を活かす事業とする。
10	地域産学官連携型持続イノベーション・エコシステム拠点：科学技術駆動型イノベーション創出プレイヤー養成プログラム	大阪府立大学	辻 洋	本学が実施する「産業牽引型」高度人材育成システムや「ことづくり思考」の養成ツール(産学連携で実施するビジネス企画演習、課題設定型演習、戦略的システム思考力演習等の演習プログラム)にデザイン思考やアイディエーションスキルを導入し、企業家養成を充実化する演習を再構築する。アドバンストコース(科学技術政策立案、起業プランニング、社内ベンチャー企画、ファイナンスプラン、MOTコンサル演習、PBL海外インターンシップ)では、受講者個々の、研究成果を利用した実践演習を多角的にサポートするなど、イノベーション・エコシステムを有機的にそしてシームレスに形成し、以下3点を特徴とする拠点を構築する。 ・高度研究者を実質的な企業家として育成することに特化 ・行政、府立産業技術総合研究所、地域企業など地域産学官との連携に立脚したイノベーション拠点 ・研究成果の事業化のための「活かた」実践演習のサポート体制とその持続的的事业化支援
11	グローバルイノベーション人材育成連携プログラム	慶應義塾大学	前野 隆司	本提案は、SDM、SFC、理工を中心として慶應義塾大学全学の連携を視野にいれて、産業界や地域の実課題に対し、領域横断的に国内外の機関と協創してグローバルかつローカルに事業を展開できる、国際的なエコシステムを創成できる組織力をもったグローバルイノベーション人材の育成を目的とする。このプログラムは、SDMのシステム×デザイン思考の方法論とSFCのPBLに基づくイノベータ育成教育を基盤にしており、集中して「多様性による協創」を学ぶコースワークと、実課題に対して創造的な解決策を出していくプロジェクトワークから構成されている。プロジェクトワークは、海外フィールドワークや、留学生を含むグループワークを実施するなど多様で国際的なプロジェクトから構成される。また、プロジェクトワークにおいて、必要に応じて、ネットワーク技術、デジタルファブリケーション技術、デジタルセンシング技術などの先端的な情報技術を駆使して課題を解決する。
12	WASEDA-EDGE 人材育成プログラム～共創館イノベーション・エコシステムの構築～	早稲田大学	橋本 周司	我が国の成長戦略の実現に寄与するため、全学を挙げて文理融合により社会デザイン工房『共創館』を設置し、事業化マインドを持つ人材の育成、持続的イノベーション・エコシステムハブ形成に貢献する。 共創館では、若手研究者や大学院生等に対し、 ①起業やビジネスの基礎知識や手法等の実践的講義、インターンシップ ②デザイン思考やワークデザインなどの価値共創デザイン教育 ③NSF I-Corps の事業化促進プログラムを原型とする顧客開発プログラム の人材育成プログラムを提供する。これらを通じて、鋭利な発想、体系的方法論により、グローバル展開可能な新規事業を創出するEDGE 人材を養成する。またエコシステムハブ形成のため、VC やコンサルティング会社、海外大学等との連携を促進する。 上記取組により、新規事業及びその担い手を多数創出して我が国の経済活性化に貢献し、他大学・研究機関にも波及させ国全体のイノベーション創出を加速する。
13	イノベーション・アーキテクト養成プログラム	立命館大学	建山 和由	本取組みは、「創造的チーム」を生み出せる人材「イノベーション・アーキテクト」の育成を目指す。イノベーション・アーキテクトとは、グローバル化・多様化し続ける世界に対応出来るマインドを持ち、チームを形成・牽引し、多様な価値観・情報のぶつかり合いから新たな価値を創造する力を持った人材である。 様々な課程・研究科からの受講生を対象に、チームでの活動を原則としたPeople-Based Learning (PBL)を実施する。学内や企業・団体のシーズ/ニーズに基づき、1年間を3期に分けて、課題抽出、課題形成、課題解決のサイクルを回す。実業家・教員の指導のもと、多様な価値観・考え方が交差するスクランブルを設定して新たな価値創造を経験する。 本プログラム修了生が、社会に出て、学んだことを実践していく中で、そのマインドとスキルが人から人へ広がっていく増殖型イノベーション・エコシステムの構築を目指す。